

明日の茨城を考える女性フォーラム における意見の概要

明日の茨城を考える女性フォーラム

(1) 総合計画全体に関する意見

- 計画した内容がすべて実行できるとは思わない。すぐに実行できる内容と時間を要する内容を区分し、優先度を見極めて対応してほしい。
- 縦割り行政から脱却して、横との連携も強化した計画であってほしい。
- 絵に描いた餅にならない計画を立ててほしい。
- 一般的に妥当な政策ではなく、思い切った政策が必要。
- 効果がすぐに出ない政策もあるので、中長期的なバックアップをしてほしい。

(2) 施策に関する意見

第1章 活力あるいばらきづくり

第2項 競争力ある商工業の育成と企業立地の促進

第1節 産業拠点の競争力向上と企業立地の促進

- 無計画な企業誘致が多すぎる。商店街の衰退にもつながるので、安易な誘致は考え直すべきである。

第3項 新鮮・安全で多様なニーズに応えられる農林水産物の産地づくり

第1節 農業生産を支える基盤の確立

- 農業県の特性を活かして、自給率を高めてほしい。
- 耕作放棄地への対策を考えてほしい。

第2節 競争力のある産地の育成と販売力の強化

- 規格外の農産物の流通体制を確立してほしい。

第3節 食を通じた生産者と消費者の信頼関係の構築

- 農業県ということもあるので、学校給食における地産地消を促進し、農家の生活を支えているという意識を、子どもたちが持てるようにしてほしい。
- 身近な場所に、地場産品を購入できる場所がない。気軽に購入できるように場所などを整備してほしい。

第4項 産業を支える人材の育成と就業の促進

第2節 雇用・就業環境の整備

- 若い人の雇用環境の整備に力を入れてほしい。
- ワークライフバランスに関する意識が、民間企業まで十分いきわたるようにしてほしい。

第5項 人・もの・情報が活発に行きかう交流空間づくり

第1節 広域的な幹線道路の整備

- インフラ整備に力を入れてほしい。

第4節 百里飛行場の早期開港と利活用の促進

- 格安のチケットやツアーがないと、庶民感覚では茨城空港は注目されないと

思う。

- 茨城空港の必要性については県民まで十分伝わっていない。必要性をもっとPR する必要がある。
- 茨城空港は電車からのアクセスが悪い。
- 茨城空港の今後について不安。

第6項 いばらきブランドの確立

第1節 地域資源のブランド化

- 他県の人からは住みたい、現在住んでいる人からは住み続けたいと思われる茨城県になってほしい。

第2節 “いばらき”の情報発信力の強化

- 県の魅力PR に力を入れ、魅力を伝える場所の整備に力を入れてほしい。

第2章 住みよいいばらきづくり

第1項 安心な暮らしを支える保健・福祉・医療の充実

第1節 社会全体で取り組む少子化対策の推進

- 少子化問題を改善してほしい。
- 子育て支援に関して色々な部所・組織が取り組んでいるが、横のつながりが無いように感じる。それらが共同で対応にあたれば、より大きな効果が得られ、さらに必要経費は減ると思う。
- 育児に悩む人の手助けとなる地域コミュニティの場所がないので、その環境を整えてほしい。
- 子育て支援について日本は遅れているので、他国の先進事例を学び、良いところは取り入れてほしい。
- 夫婦共働きの家庭の増加にあわせ、留守番をする子どもも増えている。犯罪率が増加している昨今では、子どもの留守番は大変危険なので、子どもを守るためにも待機児童がいなくなる取り組みをしてほしい。
- 育児休暇については、公務員が率先して活用し、民間までしっかり波及していくようにすべきである。
- 安心して子育てできる社会づくりを強化してほしい。
- 茨城県の特性を活かした出会いのコーディネートをしてほしい。

第2節 高齢者がいきいきと暮らせる社会づくり

- 介護福祉従事者が十分な生活を送れるように、県独自で収入を保障するような政策があっても良い。
- 市町村合併によって福祉関係のサービスが悪化した。

第5節 健やかに安心して暮らせる保健・福祉サービスの充実

- 生活基盤を支える支援に力を入れてほしい。

第6節 安心して医療を受けられる体制の整備

- 人口流入を考えた場合、医療・福祉関係を充実させる必要がある。
- 現在、医師・看護師の人数が足りていないこと、また高齢化社会が進展して

いくことを踏まえると、医療・福祉関係の就職を目指す子どもが増えるように、養成コースや奨学金制度などの環境づくりをしてほしい。

- 医師不足を改善してほしい。
- 救急車の到着に時間がかかり問題が生じている。命に関わるものなので、早急にしっかりとした対応をとってほしい。
- 医療施設を設立するにあたり、その設備導入には多大な費用を必要とするので、設備導入に対して補助金を出し、身近に医療施設があるようにしてほしい。
- 医療・福祉関係分野を充実させることは、都市部からの人口流入の有効手段といえる。
- 上手に茨城県の PR をするのであれば、医療・福祉関係を充実させ、そのことを PR するのが得策といえる。

第2項 平穏で安全に暮らせる社会づくり

第4節 食の安全対策の推進

- 食に関する検査が十分に行われていないと感じる。1度きりでなく、効果的に繰り返し行ってほしい。

第5節 防災体制の確立

- 茨城県は自然災害が少ない県だが、いつ起こるかわからないので、防災に対する情報提供を充実してほしい。

第3項 環境への負荷の少ない持続可能な社会づくり

第3節 霞ヶ浦をはじめとする湖沼環境の保全

- もっと霞ヶ浦に目を向け、観光や環境保全に力を入れてほしい。

第4節 資源循環と廃棄物適正処理の推進

- ゴミの不法投棄や器物破損など、モラルの低下が気になる。

第4項 快適で質の高い生活環境づくり

第1節 美しくやさしさのあるまちづくり

- 人口流出、郊外型商店の立地で、商店街をはじめ街中に活気がない。街に活気があればそこに居住する人も元気になり、高齢者に対する支援強化につながっていくので、活気づく政策を考えてほしい。
- 郊外型商店の影響で市街地に活気がない。活気をもどる対策を考えてほしい。
- 地域ごとに子どもや高齢者がコミュニケーションできる場をつくってほしい。

第2節 生活を支える交通環境の充実

- 公共の交通網を充実してほしい。
- 市町村内だけでなく、隣接都市にもコミュニティバスを循環してほしい。
- 車がないと生活できない地域については、公共交通を充実させてほしい。

第5項 地域社会活動の推進と世界に開かれた社会づくり

第1節 自主的・主体的な地域社会活動の推進

NPO が自立できるように、運営資金だけでなく情報の提供も充実してほしい。

○海岸の浸食、ゴミの不法投棄について、ボランティアを活用するなどの対策をとってほしい。

第3章 人が輝くいばらきづくり

第1項 未来を担う人づくり

第1節 社会全体での教育への取組

○人づくりが大切なので、教育環境の整備に力を入れてほしい。

第2節 学力の向上と個性を伸ばす教育の推進

○子どもたちが、どのように育ってほしいのかという基本姿勢を見定め、それに対応した教育が実施できるようにしてほしい。

○人材育成に力を入れ、成績（数字）ばかりにとらわれない茨城県独自の教育を考えてほしい。

○教員にゆとりがなく、十分生徒に目が行き届いていない。

○想像力が豊かになるように、子どもには様々な体験をさせる教育体制を構築してほしい。

第3節 豊かな心と健康や体力をはぐくむ教育の推進

○学校教育のなかに茨城県に関する教育をもっと盛り込み、若年層の県に対するイメージを向上させてほしい。

○県外のみでなく、県内の若年層における茨城県のイメージも悪い。学校教育のなかで、県に関する教育に力を入れるなどしてイメージアップに努めてほしい。

○教育・地域レベルが低下しているので、学校教育に道徳授業や個性を伸ばす授業を盛り込んでほしい。

○不登校児への対応を強化してほしい。

○学力ばかりでなく、豊かな人づくりを教育の現場に取り入れてほしい。

第4節 県民に信頼される魅力ある学校づくり

○教員レベルが低下している。レベル向上に努めてほしい。

○県の教育方針をしっかりと立ててほしい。

第2項 一人ひとりが尊重される社会づくり

第1節 個性と能力が発揮できる男女共同参画の推進

○男女共同参画に関する取り組みをさらに進め、住みよい茨城になってほしい。

○女性が元気であれば地域は活性化していくと思うので、女性が元気になれる社会にしてほしい。

○女性団体が行政と関わる機会を増やしてほしい。

第3項 個性や能力を伸ばす機会の充実と社会参画の促進

第1節 青少年の自立と社会参加への支援

○若い人のボランティアに対する意識が高まっているが、さらにはそれを継続して行ってほしい。

第2節 高等教育機関の充実と連携の促進

○養護学校と介護福祉に関する資格が取得できる学校とを併設してほしい。

第4項 学習環境の充実と文化・スポーツの振興

第2節 文化芸術活動の推進と地域文化の発掘・発信

○茅葺き民家を残す取り組みとして、NPOの設立などを計画の中に盛り込んでほしい。

